



岐阜いのちの電話



カキ H. M

話してみませんか
あなたの悩み…

相談電話／058-277-4343

相談時間／月～日曜日 午後7時から午後10時まで
第1・第3金曜日のみ 午後7時から連続24時間

開設時間内でも防災警報・注意報の発令（悪天候）や「相談ボランティア」の都合が付かない場合などで「休止」することがあります。ご了承ください。

ナビダイヤル／0570-783-556 (全国共通番号) 毎日 午前10時から午後10時まで

フリーダイヤル／0120-783-556 毎月10日 午前8時から連続24時間

メール相談／「岐阜いのちの電話」のホームページに必要事項が掲載されています。
相談は携帯メールもご利用できます。
inochi-mail@ktroad.ne.jp (5日以内に返信します)

ありがとう「いのちの電話」

岐阜いのちの電話20周年に寄せて

常富 佳子

人は誰でも「生きていたい気持ち」と「死にたい気持ち」を持っています。多くの人は「生きていたい気持ち」の方が強いのですが、何かのきっかけやストレスで「死にたい気持ち」の方が強くなってしまふことがあります。私たちは、そのような方のお心に寄り添い、再び生きる力を取り戻されることを願いつつ活動しています。「岐阜いのちの電話」は日曜も年末年始も電話を受けるまでにはなりませんが、本来、「いのちの電話」は365日24時間休みなく電話を受け続ける、というのが使命です。しかし残念ながら相談員数が足りなくて一部の限られた時間での活動となっています。以前、あるファンドがNPO法人に資金援助をしていただけというお話があった時プレゼンテーションで、相談員が増えない悩みをお話したら、ファンドの委員さんから質問がありました。「あなたたち、なぜこんな大切な仕事をボランティアなんかでやっているのですか、相談員を有給にしたら今すぐにも十分な数を集められますよ。そうして是非24時間やってくださいよ。」と言われました。私たちの仕事は給料目当ての人ではできない仕事なのです。ボランティアの温かい心、他人を尊重できること、隣人として対等の立場(Be friending)で支えることが出来る態度が強く要請されます。世界で最初に「サマリタンス」を作ったイギリスのチャドバラも「隣人として対等の立場(Be friending)」を強調していました。

縁あって1985年から、「名古屋いのちの電話」の電話相談ボランティアとして20年間、時間にして3,000時間、多くの方々の辛いお気持ちを聴かせていただくことができました。その中で忘れられない方々が何人かおられます。生きる力をすっかりなくし、生きがいを見いだせず死の準備もして、最後の電話をくださったあの方、あの人。私は、生きていてほしい、お願いだから死なないで……という思いで聴き続けました。私は対等な立場というより電話をかけてくださった人より下の位置に居て聴かせていただきます。「聴かせていただけますか、あなたの悩み。教えてください、あなたの苦しみ、私も共に悩ませてください。もし要らな

い重い荷物があるのなら私がゴミ箱となって一時お預かりしましょう。」という思いでいます。彼らはそのあとの人生を、きっと生き続けていてくれることと信じて、彼らのしあわせを祈っています。辛い、苦しい気持ちを聴かせていただくために月に3回、そのうち1回は深夜帯のシフトを楽しみに職場帰りの足が「電話センター」へと向かったのです。

そのうちに自分だけが電話ボランティアをして満足をしてはいけません。岐阜の地にも自殺防止の輪を広めなければ……、岐阜にも「いのちの電話」を作りたい。と思うきっかけもありましたが、当時岐阜ではまだボランティアに対する理解が得られず、反応は良くありませんでした。阪神淡路大震災の後、やっと岐阜にもボランティアという言葉が市民権を得たように思え、1998年全国で45番目の小さなセンターとして発足することが出来ました。以来、ボランティア相談員さんを支える立場でかかわらせていただいています。

いつも私の胸のうちは、一人でも自殺する人が少なくなれば……そして、「あなたが生き続けることを願っている人がここにいる。」ということも多くの人に気づいていただけたら……と願いつつ20年が過ぎました。

「いのちの電話」の仲間たち、そして電話をかけてくださった多くの方々、全国大会で出会った熱い心を持つボランティア相談員さんたちとの交流が、私の人生を健康で心豊かなものにしていただけたと感謝の気持ち一杯です。この喜びをボランティア仲間の相談員さんたちにもお伝えしたいと……。

(協会元副理事長)



相談員の声

20周年によせて

「岐阜いのちの電話協会」は今年で開局20年を迎えました。これを記念して11月3日、古賀孝前理事長を始め、開局当初からかかわった講師等関係者や元相談員など、総計53名の参加で20周年感謝の集いを行いました。

参加者は懇親会で活動の思い出や思いを語り、耳を傾けながら、それぞれに感慨深いひとときを過ごしました。

この活動は毎年新しい相談員を仲間に加え、現年新1年生もおれば、20年ロングラン選手も。この節目を機会に相談員全員からこれまでの思い出や、今この活動について思うことなどを寄せ合って「20周年記念誌」（部内誌）を作りました。その中から声の一部を紹介します。

○

1～2年目の相談員はもちろん、長く続けている相談員も、誰もが過去を振り返って忘れられない思い出があります

問1.「あなたの忘れられない思い出は？」

- ・緊張でいっぱいだった初めての電話担当の日。
- ・自殺願望がある相談電話に、内心オロオロ、先輩相談員に励まされた。
- ・苦しい思いを話してくださった女性が、最後に「かけてよかった」と言って切られたこと。

○

問2.「私にとっていのちの電話とは？」

- ・自分の知っている世界が狭いこと、さまざまな悩みがあることに気づかされた。

- ・人間として成長させていただけると。
- ・人に対して自分がどうあるべきかを問いかけ、考えさせてくれる場。
- ・活動に感謝、恩返しをしていきたい。

活動を通して、相談員自らがたくさん力を得た。相談員仲間から、電話をかけてくださる方々から、指導者の方からも。これからも、もっと成長したい。この感想は本当にたくさんありました。相談員をしてよかった実感があふれていました。

○

問3.「今後の<いのちの電話>へ」

- ・家族の理解を得、仕事と両立しながら、できるだけ続けたい。
- ・自分の小さな力が、苦しんでいるあなたの助けになれば・・・
- ・相談員が足りないのが寂しい。
- ・活動が長く続くことを願う。

この相談活動の未来を思うとき、相談員がこの活動の大切さを思い、長く続いてほしいと願っているという思いが多数寄せられました。

社会が大きく変化して、人と人とのつながりの在りようや方法が変わっても、「声」でつながる電話相談が、社会に必要だと相談活動を通じて痛感しているのです。その声のひとつを、最後に。

- ・たとえ小さな窓だとしても、ここを頼りに今日を生きている人がいる限り、いつでもノックしてもらえるようにあり続けたいです。
- (編集委員)

会費・寄附に対する感謝報告

下記の方々から岐阜いのちの電話協会へ暖かいご支援をいただきました。心から感謝して報告いたします。今後ともご支援賜りますようお願いいたします。

【個人】2018年6月1日～2018年10月31日領収分

順不同・敬称略

浅倉恵一 (岐阜市)	金子範子 (豊明市)	杉田その子 (岐阜市)	古川秀昭・昭子 (岐阜市)
伊藤英子 (藤沢市)	兼田智彦 (稲沢市)	中村紀子 (可児市)	蒔田正子 (関市)
上野一憲 (各務原市)	河合良房 (岐阜市)	長屋光行 (本巣市)	山田宣子 (岐阜市)
太田朋子 (三島市)	高坂麻衣子	西村憲一 (瑞穂市)	山田吉則 (美濃市)
大宮裕子 (岐阜市)	後藤道子 (岐阜市)	野崎桂一郎 (養老町)	若岡ます美 (岐阜市)
加藤佳代 (岐阜市)	白木裕子 (岐阜市)	福井真一 (岐阜市)	早稲田直久 (可児市)

この他お名前掲載を希望されない方 4名

【団体】2018年6月1日～2018年10月31日領収分

各務原病院 (天野宏一) (各務原市)	中津川ライオンズクラブ (中津川市)
岐阜新聞岐阜放送社会事業団 (岐阜市)	春陽会 慈恵中央病院 (郡上市)
岐阜伊奈波ライオンズクラブ (岐阜市)	本巣ライオンズクラブ (本巣市)
聖泉会 聖十字病院 (土岐市)	緑峰会 養南病院 (海津市)
三進社印刷所 (岐阜市)	

*2018年11月1日以降にご支援賜りました方々のお名前は広報次号で報告させていただきます。

*広報にお名前掲載を希望されない方は事務局までお知らせください。

～事務局だより～

2018年6月～12月

* 相談員資質向上の研修を実施

愛知、岐阜、三重のいのちの電話が合同で「経験年数別一日研修」を10月6日名古屋市内で実施しました。岐阜からは8名が参加しました。

* 第35回いのちの電話相談員全国研修会にいがた大会に参加

10月18日～20日新潟県でいのちの電話相談員全国研修会が開かれ、全国から約600名の相談員が参加、岐阜からは9名が参加し、全国の相談員との交流、情報交換の場となりました。これからの活動に生かしていきます。

* 岐阜いのちの電話ボランティア養成講座

第18期養成講座を受講、実習を修了された5名が9月16日に相談員として認定され、電話相談員活動を始めました。

第19期養成講座では4名が第1・第2課程を終えて第3課程に進んでいます。2019年3月に講座を修了し電話相談実習に入る予定です。

* 岐阜いのちの電話開設20周年を迎えました

11月3日、ふれあい会館にて53名出席のなか記念の感謝の集いを開きました。(関連記事3頁参照)

予告



2019年4月から第20期相談ボランティア養成講座を始めます。

期 間：2019年4月～2020年3月

受講資格：20歳以上

受講料：全課程で27,000円

*詳細は事務局までお問い合わせください。

予告



演題 「消えたい気持ち」
～様々な生死観から見えてきたこと～

講師 根本一徹氏(僧名 紹徹)大禅寺住職

日時：2019年2月3日(日)

14時～16時(受付13時30分～)

会場：岐阜県図書館 1F 多目的ホール

入場：無料、事前申込不要

(会場満席の場合はお断りする場合があります)

定員：200名

特定非営利活動法人
岐阜いのちの電話協会

〒500-8387 岐阜藪田簡易郵便局 局留
TEL・FAX 058-273-5387 (事務局専用)
発行人 杉田 憲夫・編集 広報委員会

□岐阜いのちの電話協会ホームページ <http://www.ktroad.ne.jp/~inochi/> □メール・アドレス inochi@ktroad.ne.jp